



January- Australia Day Natalie Edmondson

Modern Australia has a birthday- 26 January 1788.

This is not the day Australia was discovered by Europe. The Dutch had landed there and named the island 'New Holland' more than 100 years before (about 1644). But the Dutch landed and explored the west coast of Australia and decided that the country was unsuitable for settlement because there was not a lot of usable land or resources.

In 1770, Captain Cook explored the east coast of 'New Holland' and claimed it in the name of Britain. When Britain lost the 13 colonies of America to revolution, they decided that it was necessary to build a settlement in 'New South Wales' (named because the land looked like that in the south of Wales) to send their prisoners. So the First Fleet journeyed to the island and on 26th January 1788, Captain Philip planted the Union Jack on the site where a settlement would be built. That settlement would later become Sydney.

Australia Day is a public holiday and is celebrated each year with a variety of events. But it is not a happy day for everyone. Aboriginal Australians do not like that the day which celebrates Australia happens on the date which marked the beginning of suffering for their peoples. British people treated the native inhabitants of the land very badly, so while they agree that Australia should be celebrated, the date should be changed to something every person has cause to celebrate.

One date gaining popularity is May 8, because when you say those words together, it sounds like 'mate', a slang word common in Australia to mean 'friend'. What do you think?

【ちょっと豆知識】宮地晶子

オーストラリアでは「こんにちは」は "G'day, mate!"。その他、afternoon はarvo、朝ご飯breakfast は、brekkieなど省略語が多い。短い言葉で気さくに話すことを好む国民性からでしょうが、一説にはあまりにハエが多いので、口を開けないように言葉が短くなった、なんていう話も聞いたことがあります。

1月—オーストラリア・デー ナタリー・エドモンソン

現代のオーストラリアには誕生日があります。1788年1月26日です。ヨーロッパに発見された日というわけではありません。150年も前(約1606年ごろ)に、オランダ人が上陸し、地図上で何十年も「ニュー・ホランド」と呼ばれていました。でもオランダ人が探索したのは西海岸で、使える土地や資源があまりなく、定住には向かないと決めつけていました。

1770年、キャプテン・クックは東海岸を探索し、その地に英国の権利を主張しました。革命でアメリカの13の植民地を失い、囚人の送り先として「ニューサウスウェールズ」に開拓地を作る必要があったからです(本場ウェールズの南部に似ていることからこの名が付けました)。最初の植民船団が来て、1788年1月26日にはキャプテン・フィリップが開拓

(訳:宮地晶子)

予定地に国旗ユニオン・ジャックを立てました。これが後のシドニーです。

オーストラリア・デーは、毎年さまざまなイベントを行う祝日ですが、「万人に幸せな日」というわけではありません。アボリジニの人たちにとっては、この日が苦しみの始まりでした。イギリスの先住民に対する扱いは、それはひどいものでした。そこでアボリジニの人たちは、祝日は認めつつも、万人が祝福する意義のある日付に変えるべきだと主張しています。

人気を集めつつあるのは5(メイ)月8(エイト)日。一気に発音すると「メイト」、オーストラリアで「友だち」を意味するスラング(俗語)、「メイト」に聞こえるからです。いかがでしょうか。

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第146回

Liason (リエゾン) 音変化

「アイム ウォーキンソン サンシャイン オー♪ アイム ウォーキンソン サンシャイン オー♪」。懐かしい曲がかかりました。イギリスのロック曲Walking On Sunshine (1983年)です。「walking onをウォーキンソンとくっつけて発音してる…こういうのが大事やねん」とつい喫茶店で熱く語る私。「そういえば、トイレに貼ってあるのもそうだけど、英語の歌っていつも字余りだよ」と夫。

「字余り」とは言い得て妙。確かに英語の歌詞って途方もな

く長い。これをいかにそれらしく歌うか。これが英語習得の大きなポイントになります。

一つひとつの単語の発音やアクセントも大事ですが、英語は全体の音変化(リエゾン)がとにかく大事です。これが分らないとリスニングがお手上げになる。生徒には「音のくずれ」とか「音がくつつく」と日々教えています。

しつこくこれを指導し続けた甲斐あって、今の中学3年生は「英語はつなげて読むものだ」と分かってきた様子。分らないと「どうつなげるのか」とたずねてくれます。

先日成果を図るために、ナタリーさんに一人ひとり音読テストをしてもらいました。評価のポイントは「発音、イントネーション、アクセント、音変化、区切り」の5つ。結果は「リエゾンはバッチリ」とお墨付きをもらうことができました。

でも次の課題が見つかりました。それは区切り(pauses)。みんな1対1で緊張したのか、ノンストップで音読したらしい。音読の区切りを聞けば、その人の文の理解度が分かるくらい区切りも大事なのです。「ああ、やることいっぱいあるなあ」。